

# きんもくせい

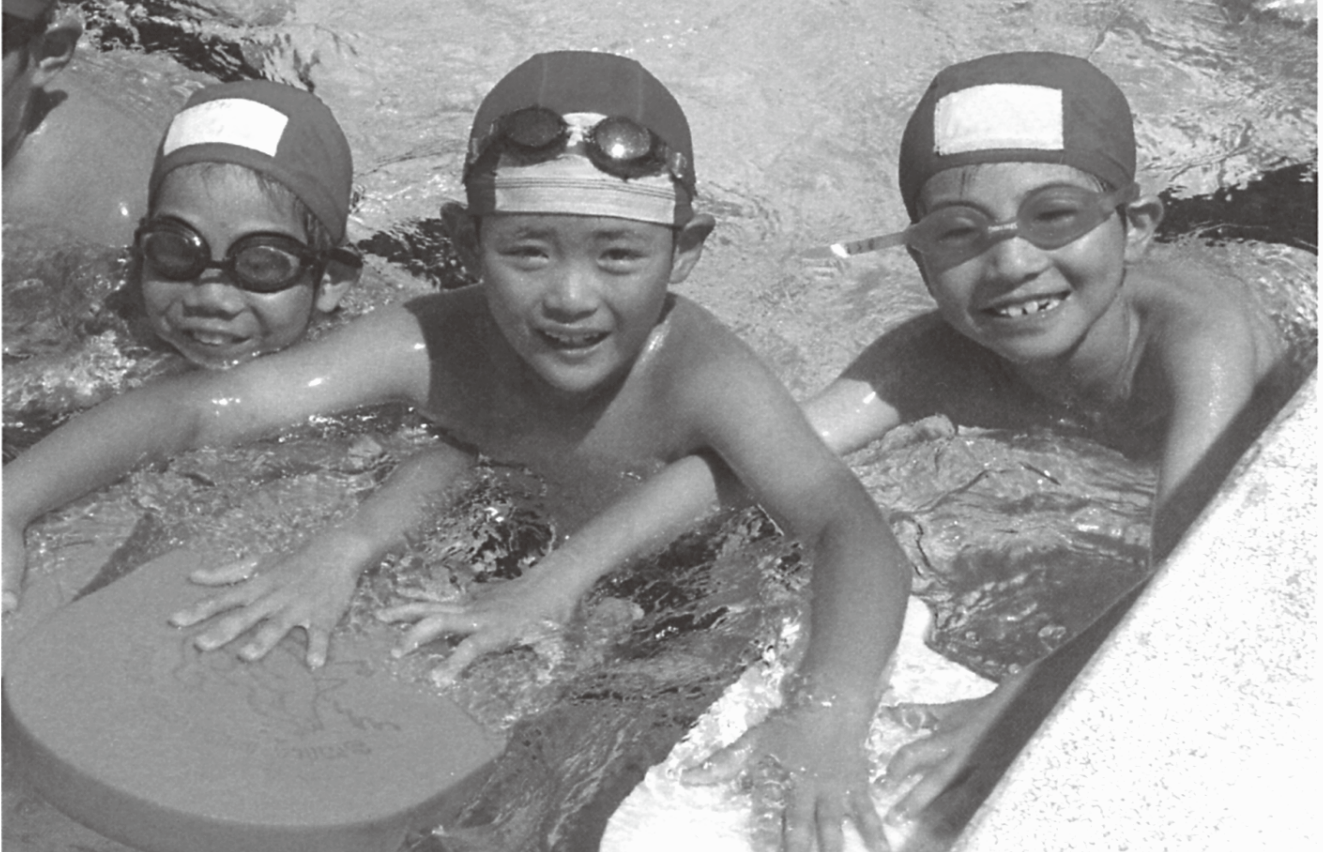
編集目標 人間尊重の教育を求めて

平成24年 学校教育だより

September 9 第314号

(年4回発行)

編集・きんもくせい編集委員会  
発行・埼玉県富士見市教育委員会  
電話・049-251-2711 (内線622)



水泳教室「みんなでプール、楽しいな」

写真提供／関沢小学校

リーダー

水谷小学校 六年

下川 蓮

みんなの中心になるリーダー  
みんなの手本になるリーダー  
学校

そこにはたくさんのリーダー  
目指すリーダーも皆ちがう

人それぞれ

そんなリーダーが集まって

すばらしい学校になる

そして次のリーダーへ

リーダーとはリレーのようだ

すばらしい学校を続けるため

バトンをつないでいく

不安でも やりたくなくても

つなげなければいけない

それがリーダー

# 児童の実態から考える

南畑小学校は、通学区域が広く、一時間近くかけて登校する子どももいます。そのため全体的に見て、基礎的な体力はありません。子どもたちは体育が大好きで、汗を流し、運動に一生懸命に取り組めます。しかしながら、「走り方」や「ボールの投げ方」など、技術的な能力の向上は十分とは言えません。

その理由として、①体育が「楽しい」だけで終わってしまい、子どもが運動のポイントをしつかりと理解できていない。②一時間の授業の中で、運動量が満足に確保できていない。この二点が考えられます。それを解決するための手立てとして、まず子ども自身が学習のめあてをもって、技能のポイントを学習することが必要だと考えました。あわせて、教師が運動量を十分に確保するための工夫をしていく必要があります。

今回は、「わかる授業」Ⅱ「子どもが伸びる授業」ととらえて、「伸びる授業」を作り上げていくための工夫について、本校で取り組んでいることを紹介します。

# 目指した工夫 子どもに～

指導者 南畑小学校 教諭 矢場 友道

## 自分で考えさせる

走り幅跳びの授業では、「どうすれば遠くに跳べるのだろう。」という問いかけに「跳ぶ角度」「助走距離」「目線」などの発言がありました。それをもとに、繰り返し挑戦し、友だちの跳び方を見た上で、子ども自身が一番良い跳び方を見つけていきました。「自分でコツを見つけた。」という過程が、技能を高めていくために大切なことです。「さらに遠くに跳ぶためにはどうすればよいだろう。」と聞いてみると、「手の動き」「助走のスピ



ード」など、さらなるポイントが出されました。自分の力で解決していく過程を通して、どんどんコツを見つけて出し、新記録が出ました。

## 授業の進め方の工夫

マット運動の授業では、「側方倒立回転」をメインに取り組みました。授業の導入では、「横転がり」や「ゆりかご」「肩倒立」など、様々な回転技や支持技を準備運動として行い、マット運動の基礎感覚を身に付けました。展開では、「側方倒立回転」について、一斉指導でポイントを示し、運動能力の習熟度によってグループに分けました。子どもたちは、上手な人の技を見て、アドバイスをもらい、技の理



解を深めました。次の時間からは、同じ課題をもった友だちとグループを作りしました。そうすることで、

## 子どもの姿

みずほ台小学校 6年 葉草 未空

私は、みずほハッピーワールドで六年生の大変さを知りました。去年の縦割り班は、グループリーダーが「静かにして。」と声かけしなくても自然と静かになるいつも楽しい雰囲気ของกลุ่มでした。私も楽しい縦割り活動を目指し、グループリーダーをやってみました。実際は、全然うまくいかず、少しいらいらしてし

## みずほハッピーワールド

まうこともありました。今から思うと、去年の班長はすごいです。

「みずほハッピーワールド」が終わって、後悔することもあったけれど、達成感の方が強かったです。これからも、達成感のもてる縦割り活動を目指し、六年生として頑張ります。



わかる授業

＝ 小学校の体育 ＝

# 「伸びる授業」を ～体育が大好きな

## 特別支援教育

### 生徒一人ひとりの支援を目指して

東中学校教諭 小島香奈子

本校の生徒達は穏やかで、授業や諸活動に意欲的に参加しています。また、保護者や地域の方の御協力の下、地域のボランティア活動に参加する生徒も多くいます。しかし、様々な悩みを抱えている生徒も少なからずいます。職員全員で生徒一人ひとりを「職員全員で生徒一人ひとりを見よう、考えよう」が東中学校全職員のテーマです。学習面ですみずきを感じている

前時で習得した知識・技能をもとに、自分たちの課題を克服するよう話し合いながら、取り組むことができました。異質のグループで学び、そして、同質のグループで学ぶことで、子どもたちはより「側方倒立回転」の技能を高め、技の理解を深めることができました。一斉指導で教師が示したポイントをもとに、子どもたち同士がアドバイスをし合える場を設定することで、技能のポイントを理解することも運動することの楽しさも知っていました。このよう

に意図的かつ計画的にグループ分けをすることで、友だちと共に考えたり、切磋琢磨しながら習得していく学習の過程が、「伸びる授業」へとつながるのだと考えます。

### わかりやすい指示の工夫

本校では、「ハンドサイン」を使った集団行動を取り入れています。「教師が手を上に伸ばすことで、「前へならえ」を行い、手を下した時は「気を付け」をします。手を「グー」の形にした時は体育座りの姿勢となります。このサインを

生徒や、集団生活への適応が不得手な生徒への支援、対応にあたっています。今年度は、特別支援教育の視点に立ち、個に応じたきめ細かな指導や支援のあり方を学ぶことを目的としています。全職員の知識、理解を深めていくための校内研修を行っています。

六月には、川越市立特別支援学校長の高田豊先生をお招きして、講義をしていただきました。

ました。講義を通して、特別支援教育は「特別」にとらわれないこと、誰にもおこりの不便さにとらえることなど、個性や育ち方などの背景を大切にしながら、関わることの大切さを学べた良い機会を得ることができました。八月には、川越市立特別支援学校及び富士見市立特別支援学校の先生方を講師として、研修を重ねていきました。特別支援教育について研鑽を積み、本校生徒が様々な立場の人を受け入れ、お互いに大切にできる人間に成長してほしい、そう強く願っています。

徹底させることで、子どもたちが教師の指示に集中し、素早く反応し、規律よく話を聞くようになりました。また、駆け足で集合、そして、素早く整列ができることで、運動時間の確保にもつながりました。単純な繰り返し行動は、子どもたちは嫌がりますが、上達することで、教師が「よくできたね。」としつかり評価してあげると、子どもたちは意欲的に取り組みます。



### まとめ

「伸びる授業」の基本は、教師が運動の特性を十分に理解し、子どもたち一人ひとりの能力を把握することです。体育の授業のみならず、学校生

活全体を通して、子どもたちをしつかりと見つめ、休み時間には、他学年の子どもたちと外遊びをして過ごすことで、遊びの中から、子どもたちの体力的・精神的な理解に努めています。

「伸びる授業」を通して、今後、子ども一人ひとりの運動技能と体力の向上につながっていきます。そして、小学校での体育の経験を生涯にわたって生かしていけるように、「体育が好きな子ども」を育てていきたいです。

### 指導・講評

南畑小学校校長 宮 陽一

この実践により、大きな声での教員の指示（指導）がなくなり、教員の動きをみることで行動できる子どもが確実に増えている。また、技能のポイントを確実に理解させることで子どもたちに自主的に学ぼうとする意欲も出てきている。子どもたち同士で教えあい、学ぶことで絆も強まり、学習以上の心の豊かさが見られるようになった。一人ひとりの個性を伸ばすとともに、集団の中での必要な力が身に付くことを期待したい。

# 褒める教育

本郷中学校保護者 小西 さち子

子どもが幼い頃は、よいことだと思っても、理解できていなかったのですが、地域の方々のかかわりが、子どもの成長にかかせないものだったと言うことが、今、真の意味で分かるようになりました。

長女は、同世代の友だちよりも少し早く数字や文字が読めるようになりました。そんなある日、男性が公園で新聞を読んでいた。好奇心旺盛な子どもたちは、その方に話しかけにいきました。話しかけるのが苦手な娘は、新聞に載っていた野球選手の背番号を読みました。すると一番体の小さな娘が読めたので、友達やその方がたくさん褒めてくれたのです。それから娘は、数字が好きになりました。また別の日、娘と図書館で本を読んでいた日のことです。絵本のひらがなを一字ずつ読んでいる娘を見て、同じくらいのお孫さんを連れていたご婦人に褒めて頂きました。それから娘は本が大好きになりました。これらのことがあって私は、子どもの教育で悩



むことはなかったと思います。そんな経験から、子どもの教育やしつけは、地域ぐるみで行なった方が、親にとつて望ましい環境を作ることができると感じました。両親や祖父母だけでなく他の人に褒めてもらえたことで、子どもも受け入れやすく、うれしさも増しました。良い環境を絶やすことなく、次の世代につなげるため、私も幼い子どもたちをたくさん褒めて伸ばしてあげたいです。それが私達の使命ではないでしょうか。



## 学力の向上を目指して

諏訪小学校

本校では、子どもたちに生きる力を育てるために、子どもたちの内面に目を向け、よさや可能性を生かす教育を進めています。その中核が学力向上です。

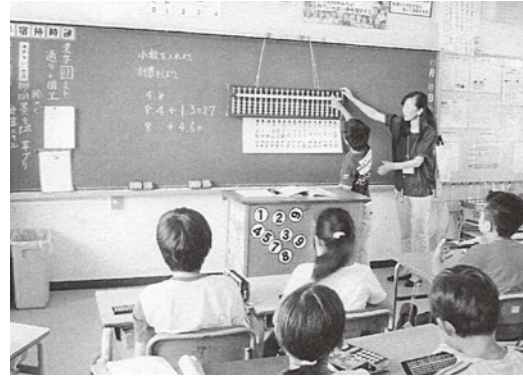
日々の算数授業の充実に向けて①子どもたちが学習課題をしつかりつかみ解決していくように、問題解決的学習や学び合い高め合いの学習、複数の先生による個別学習の充実を行なっています。

また②計算力を高めるために、朝の「ぐんぐんタイム」で全校一斉に計算プリントに取り組んだり、授業最初の五分間に計算練習を行ったりしています。

さらに③学習の質と量を高めるために、ノートを取り方や発表の仕方を工夫するなど、研究を進めています。

この他にも、ボランティアの皆さんに学習支援をしていただいたり、中学校との連携

を深めたりして、生きる力をはぐくんできています。



# はぐくむ

～学校・家庭・地域から～

## 親も子たちに教えられて

勝瀬小学校PTA会長 大澤 良一

最初にテーマから少しはずれるかもしれませんが、身近なことをお話ししたいと思います。

自分は、五人の子どもに恵まれました。毎日、子どもといると一日が早く、また、嫌なことがあっても、子どもの顔を見れば、忘れてしまえます。子どもの力というのは、すごいと思います。ですから虐待などは信じられないのです。子どもは、生まれた時か

ら、ひとりの人としての人格を持っていきます。五人の子どもと毎日接していて、みんな性格も身体も違います。よく「五人いるから慣れているでしょう」と言われますが、それは大きな間違いなのです。ひとりひとり違うので、大変？というより面白く、楽しく、そして、気が早いかもしれないですが、どんな道を歩んでいくのだろうと思っています。子どもは一日、一日成長して

います。

何回も何回も繰り返して、できるようになっていくのです。チャレンジする気持ちを保持してもらいたいし、いつまでも持ち続けてもらいたいですね。そして、「子育て」と言いますが、親も子どもに教えられ育てられているのだと思います。

最後に、悪いことは悪いと言え、強い気持ちを持った、自分に負けない、そして、チャレンジする気持ちをいつまでも持つて、自分が今こうしていられる幸せを感謝できる

大人に育ってもらいたいと思つています。親の欲目でしょうか!?



### 開校三十周年を迎えて

水谷中学校

遠方に見える富士山、青空

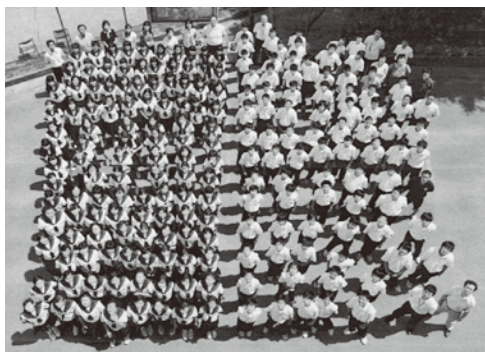
を映す水田、新緑に輝く木々。

このような豊かな自然に抱かれて、本校の生徒たちは純朴で、素直である。あいさつも元氣よく、行事や部活動、清掃にも一生懸命取り組む。学習意欲も高まってきて、授業態度もよい。生徒会活動は温かく、「一致団結」が生徒たちの誇りとなっている。保護者や地域の方々は、生徒たちをとてもよく見守つてくださつ

ている。

今年度、開校三十周年を迎えたが、この三十年間でこのような校風が出来上がつてきた。多くの関係者に心から感謝を申し上げたい。

「感動は挑戦と思いやりから」——今年度の学校スローガンである。「土曜授業の実施」「防災教育の研究」「三十周年記念事業の実施」「ひまわりや野菜栽培」など、今年もやりがいのある一年である。



生徒も教職員も、何事にも生き生きと取り組む、たくさん感動を味わえる学校でありたい。

### 教育課題特集

# 生きる力を

### 富士見市と「ふわっぴー」

市マスコットキャラクター「ふわっぴー」デザイナー 石田 裕子

富士見市に引越して来て約一年と八ヶ月が経ちました。この街に来て特に感じたこと、それは、人々の温かさや自然や農作物の豊かさでした。まだ一歳にも満たない娘を連れて外に出ると、いつも誰かが声をかけて下さったり手を差し伸べて下さったり…。私自身、最初は慣れない街での初めての生活と子育てに不安が無かった訳ではありませんでしたが、皆様の温かさに励まされ、美しい自然に癒されながら日々を過ごしていく中で、少しずつですが、この街に溶け込んでこられたことを今ではとても嬉しく思っています。娘はこの夏、二歳の誕生日を迎えることができました。たくさん愛情や自然の恵みを小さな身体いっぱい受け止めてすすくと成長していく姿を見てみると、ほんわかとした幸せな気持ちになり、この街で子育てができる喜びと感謝の気持ちを感ずずにはいられません。

「ふわっぴー」のキャラクター設定は、まさに私が富士見市で実際に生活をしていく中で感じた温かさや、わが子

これから「ふわっぴー」が皆様からいつまでも愛され、親しまれ続けるキャラクターに成長してくれることを心より願っています。





長瀬にて飯ごう炊飯～3年生校外学習～

3年生は、6月21日、秩父長瀬キャンプ村へ行きました。飯ごう炊飯を初めて経験した生徒が多かったものの、班員同士協力する姿が見られました。失敗しながらも、自分達で作上げたカレーライスが格別の味がしました。

本郷中

二学期が始まりました。二学期は、各学校でたくさんさんの行事が計画されています。特に、豊かな体験活動を推進していくために、市内のそれぞれの地域の特色を生かして各学校は工夫して取り組んでいます。健康・安全・体力・防災・職場体験・自然体験・自立体験等、どれも今の子ども達にとって必要な体験活動です。体験活動を通して得た知識・技能は身に付きやすく、印象に深く残ります。時には失敗することもあります。失敗から学ぶことも大切です。



南畑小



フィーバー運動

朝、全校で取り組んでいます。音楽に合わせてペットボトル（水入り）を持って踊ります。課題となっている「投力」の基になる「腕力」と「握力」を、楽しく鍛えます。



柳瀬川いかだラリー・「水谷中30周年号」

夏休みの初め、水谷中PTAと教職員、生徒と共にいかだラリーに参加しました。第3位でしたが、ローラ役では、いかだクイーンを受賞しました。秋にも30周年記念行事が続きます。

水谷中



富士見特別支援学校

宿泊学習で、電車に乗ってお出かけしたよ

小学部1・2・3年生の6名は、6月28日、29日の2日間に渡って校内宿泊学習をしました。初日は一駅電車に乗って勝瀬原公園まで遊びに行き、近くのレストランで食事もしました。楽しい思い出がいっぱいできました。

市教育相談室より

「自己肯定感」を考える

一、自己肯定感とは何か

平成22年度に実施した「富士見市親子意識調査」によると、富士見市の児童生徒の「自己肯定感」が低いことが分かりました。

「自己肯定感が低い」とは、一言で言えば、自分のことが好きではなかったり、自分を認めることができなかつたり、自分には短所ばかりで、長所が一つもないと思いついてる状態をいいます。人は、自己肯定感が低いと、自分の持っている能力を發揮できず、自分の能力を内側に閉じ込めてしまいます。つまり、「こんなことをしたら失敗しないだろうか」、「失敗したら叱られるかな」、「だから自分はだめなんだ」などと思ってしまう、ますます自信を失ってしまうものです。

二、自己肯定感を高めると

しかし、逆に、人は、自分の長所に気づき、自分で自分を認めることができるようになると、そのことが自信となり、自分の能力を發揮できるようになります。すると、ますます自信が付き、ますます能力を發揮できるようになるというプラスの循環が起るのです。この「自分を認める」ということは成長するためには必ず必要な要素であり、これがあれば人は自然に成長するといわれています。



富士見台中

職場インタビューを通して仕事を考える

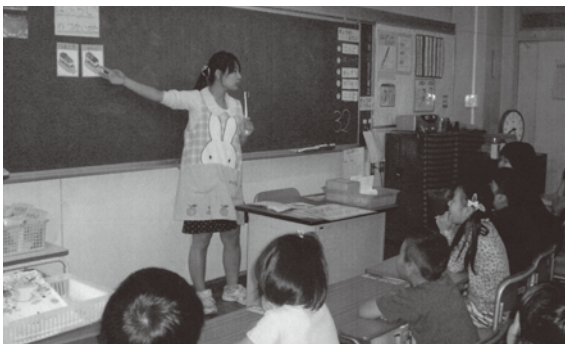
富士見台中では、2年生で行なう社会体験学習の事前学習として30カ所の職場にご協力頂き、次年度の活動につながることを、インタビューさせて頂くという学習を行っています。今年も7月12日に1年生全員が行って来ました。



ふじみ野小

どきどき わくわく まちたんけん

2年生の生活科の学習では、身近な地域の“見たい・知りたい”を探検して伝え合いました。駅のパン屋さんではお店の人がやさしく教えてくれました。



鶴瀬小

歯っぴー教室～ピカピカの歯をめざして～

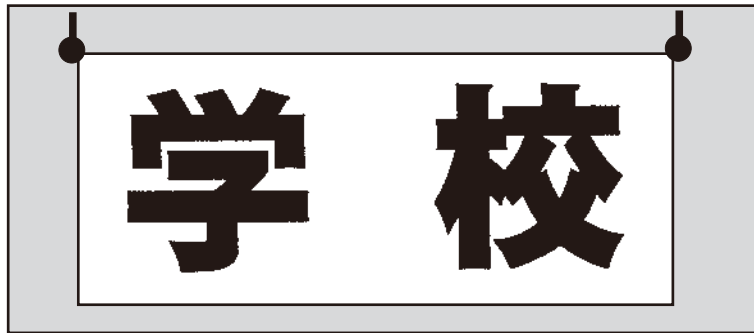
上手に磨けているかな。乳歯から永久歯に生え変わる大切な時期である1年生。子ども達は、真剣に養護教諭の話の聞き、正しい歯の磨き方を学びました。



つるせ台小

つるせ台小学校区 合同防災訓練

大地震の発生を想定して、各町会、防災会、市、学校等が連携して訓練を行いました。引き取り訓練、煙体験、起震車体験、炊き出し訓練、宿泊訓練等を行いました。「地域の安全は、みんなで守る」意識が高まりました。



水谷小

自分の身は自分で守る

県警「あおぞら」の皆さんをお招きしました。知らない人が家に来てすぐにはドアを開けない、など具体的な事例を挙げてお話いただきました。

三、自己肯定感が低いとあるジャーナリストによると、「罪を犯した少年の精神分析をみると、すべての子に同じような結果が出た。それは、どの子も『自分は無価値な人間だ』と思っ

ていることである。自分は無価値。だから、他人も無価値。価値のない人間にはどんな仕打ちをしてもいいという論理が成り立っていた。」と指摘しています。

また、有名な心理カウンセラーは保護者への講演会で、『自分は今までに一万件以上の青少年に関する相談にのってきたが一番伝えたいことは、どうかお子さんをほめてあげてほしいということ。』

「自分にはいいところがある」、そう思っている子は、たとえいろいろな問題を起こしても必ず立ち直れます。また、立ち直るまでの時間も早いです。だから、どうかお子さんをほめてあげて下さい。」と訴えています。

四、まとめ

「自己肯定感が低い」という問題は本市だけの問題ではなく、現在の日本の子ども達全体に起きている問題であり、国際比較調査(日本青少年研究所(2002・11)でも、外国と比較するとかなり低いことが分かっています。

是非、ご家庭でも、お子さん達の様子を認め、ほめ、自己肯定感が高まるよう関わっていただければと思います。



# 教育委員会だより

## おめでとう！全国・関東大会結果

### ○平成24年度全国大会出場者

《第42回 全日本中学校バレーボール選手権大会》

- ☆東中学校 バレーボール部 (男子) 決勝トーナメント進出
- |    |        |     |        |        |        |
|----|--------|-----|--------|--------|--------|
| 嵯峨 | 大輝 (2) | 小倉  | 翔吾 (2) | 鈴木     | 寅靖 (3) |
| 池田 | 大地 (3) | 石井  | 佑季 (2) | マルキナシム | (3)    |
| 飯竹 | 光明 (3) | 凶師  | 樹也 (2) | 江村     | 優人 (3) |
| 武井 | 柚樹 (3) | 小檜山 | 太一 (3) | 砂川     | 祐満 (3) |

### ○平成24年度関東大会出場者

《第36回 関東中学校水泳競技大会》

- ☆富士見台中学校
- |              |      |    |        |
|--------------|------|----|--------|
| 200m、400m自由形 | 予選敗退 | 松浦 | 寛和 (3) |
| 100m、200m背泳ぎ | 予選敗退 | 菅野 | 彩音 (2) |
| 400m自由形      | 予選敗退 | 中山 | 瞬 (1)  |

《第47回 関東中学校バレーボール大会》

- ☆東中学校 バレーボール部 (男子) ベスト8
- |    |        |     |        |        |        |
|----|--------|-----|--------|--------|--------|
| 池田 | 大地 (3) | 江村  | 優人 (3) | 鈴木     | 寅靖 (3) |
| 佐藤 | 叶梧 (3) | 石井  | 佑季 (2) | マルキナシム | (3)    |
| 桶田 | 一樹 (3) | 梶   | 瑞貴 (3) | 武井     | 柚樹 (3) |
| 飯竹 | 光明 (3) | 小檜山 | 太一 (3) | 砂川     | 祐満 (3) |

- ☆西中学校 バレーボール部 (男子) 1回戦敗退
- |    |        |    |        |    |        |
|----|--------|----|--------|----|--------|
| 久保 | 佑平 (3) | 半澤 | 潤 (3)  | 泉田 | 悠汰 (3) |
| 日野 | 航 (3)  | 中島 | 哲平 (3) | 阿部 | 海翔 (3) |
| 鶴岡 | 統真 (2) | 高田 | 修平 (3) | 白井 | 智己 (2) |
| 齊藤 | 大亮 (2) | 渋谷 | 太一 (2) | 嶋田 | 達也 (2) |



トムシの卵が、今年、我が学級で成虫になったのである。「帰る頃には、きつとこげ茶色になってるよ。」  
「記念撮影しよう。」  
「一皮むけた一つの命を囲んで、教室はいつもに増して活気づいた。」

「理由…つよい男になってほしい」、つるかめ、もとき…。児童の登校前にこっそり中をのぞくと、笑いがこみ上げた。と同時に、そんな一生懸命でユーモアにあふれた子どもたち



ちのことが、ますます好きでたまらなくなりました。子どもたちも、一生に一度限りの成長の瞬間を積み重ね大人に近づいている。今も暑い中、一生懸命よさこいの練習をする子どもたち。カブトムシの力強さが、彼らに重なるように映る。この二学期、果たして四年二組のみんなは、何皮むけるのだろうか。その成長の瞬間を見逃さず、多くの感動と喜びを子どもたちと共有していきたい。

「先生、大変！カブトムシになってる！」  
虫かごをのぞくと、赤茶色に光ったカブトムシが、殻を脱いでゆつくりと動いていた。昨年からは児童が飼育するカブ

で、教室はいつもに増して活気づいた。  
カブトムシの卵が幼虫・さなぎを経て成虫になることは既知の事実である。しかし、その一つの命の連続性と、大

(理由…つよい男になってほしい)、つるかめ、もとき…。児童の登校前にこっそり中をのぞくと、笑いがこみ上げた。と同時に、そんな一生懸命でユーモアにあふれた子どもたち

ちのことが、ますます好きでたまらなくなりました。子どもたちも、一生に一度限りの成長の瞬間を積み重ね大人に近づいている。今も暑い中、一生懸命よさこいの練習をする子どもたち。カブトムシの力強さが、彼らに重なるように映る。この二学期、果たして四年二組のみんなは、何皮むけるのだろうか。その成長の瞬間を見逃さず、多くの感動と喜びを子どもたちと共有していきたい。

### 編集日記

盛夏の中、ロンドンオリンピックが幕を閉じた。メダルの数も日本は予想以上だったそうだ。メダルの数にこだわらなければ、メダルを目標に、四年間を振り返る選手の思いは募り、コメントも「感謝したい」「一人の力ではない」「もつと強くなれた」「夢をあきらめないでよかった」「肩に掛けていたものが今、首に掛けています。積み上げた精神、周囲の期待はずしりと重く乗っていたのであろう。全て報われたというように涙も笑顔も輝いていた。しかし一方では、いじめによる悲惨なニュースも多くあった。詩を紹介します。(一部省略)

「しあわせ」について考えてみませんか。(忽滑谷)

「しあわせ」ってなに  
夏の太陽  
それともふりつづいた  
雨のあと太陽だろうか  
しあわせってなに  
勝つこと  
それとも  
バストをつくことだろうか  
しあわせってなに  
できないとあきらめていたことをやり遂げることだろうか  
しあわせってなに  
ほいほいものすべて手にいれること  
それとも  
ほいほいものをさがし求めること  
しあわせってなに  
自分をもつこと  
自分を大切にすること  
そして  
自分と同じくらい  
他の人も大切にできること  
(明治大学諸富先生の講義より)